

# 道徳～研究討議の記録～

道徳は、研究大会での公開授業が無かったため、校内の提案授業を研究のまとめとして実施した。以下は、授業後の討議のまとめである。

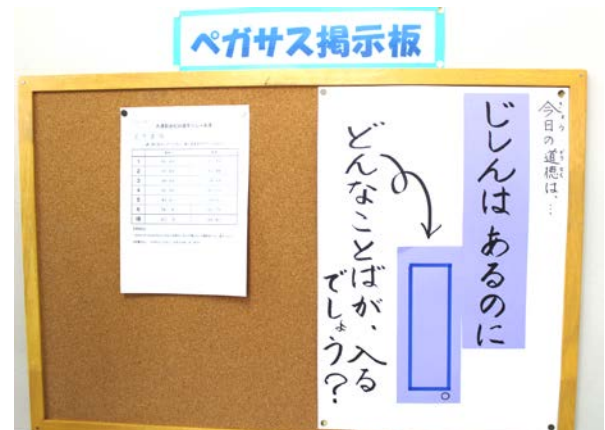
## I 研究討議から ※主なものを抜粋

### ○資料について

- ・児童が共感しやすい資料であり、自分ごととして捉えやすくなっていた。
- ・資料を区切って提示したことが、問題状況を児童が焦点化して捉え、主体的に関わることに効果的であった。
- ・資料提示と発問構成の工夫によって、授業展開がスムーズになり、グループでの話し合いに多くの時間を使うことができていた。

### ○教室掲示の活用について（右写真参照）

- ・事前の教室掲示と、それを用いた導入の発問をすることにより、内容項目についての児童の問題意識が焦点化されていた。



### ○発問について

- ・両極端の発問（「じゃあ挙げたらいいしょ？」「じゃあ挙げなきゃいい？」等）を意図的にすることによって、児童を揺さぶり、主人公の困り感に共感させ、問題の焦点化が図られていた。

### ○グループでの話し合い活動について

- ・グループでは、主人公である「きみ子」の立場に立って話し合っているグループが多かった。
- ・「きみ子がどうすべきか」という具体策について、よく考えられていた。
- ・どのグループも活発な話し合いがされていた。

### ○内容項目「希望と勇気、努力と強い意志 A-（5）」について

- ・視点を変える発問「きみ子さんだけの問題ですか？」によって、「周りの児童」の立場に立った方法について考えることにつながった。
- ・「周りの児童」の立場の考えとして、「応援する」「(言えない気持ちを)分かってあげる」といった考えが出されて、児童の視点がより多面的なものになっていた。
- ・本時における内容項目として、「きみ子」の立場だけではなく「周りの児童」の立場を考えさせることは有効だったのかどうか。様々な立場から考えることによって、ねらいとしている道徳的価値にズレが生じることも考えられるのではないだろうか。

### ○学習テーマについて

- ・授業の構想では、「どうして『勇気』は大切なのか。」となっていた。実際の授業では、児童とのやり取りを生かした上で、「勇気を出すために」という学習テーマを設定していた。事前に想定していたものとは違ったが、後者の方が「きみ子」の立場で考える必要感のある学習テーマとなっており、本時の中心発問とのつながりが明確であった。学習テーマの吟味が重要であることを改めて実感した。

## II 本校の道徳教育推進に当たって（各学級共通の取組）

### ① 板書について

本時のまとめを板書します。

児童と共有した「学習テーマ」を板書します。

日付を書きます。主題名は学習テーマとの関連から、書かないこともあり得ます。

発問に対する児童の考えを取り上げ、板書します。主発問以外の発問についても板書します。

「価値への方向付け」における発問と児童の考えを板書したり、資料を提示したりします。

### ② 道徳ノートについて

本時のまとめです。学習テーマに正対していることが大切です。

日付、主題名

次時以降の授業開始時に、前時の振り返りに書いたことを実行できたかどうかについて、自らの日常生活を振り返って記述します。教師からの簡単なコメントを入れ、実践への励ましをします。

最後に振り返りを書きます。振り返る際には、「これから自分はどのようにしていきたいか」「今日の学習をして思ったこと」等といった視点をもたせます。

主発問に対する自分の考えを書きます。

本時で追求する「学習テーマ」を書きます。

- ③ 道徳コーナー（資料、板書等の掲示）の設置
- ④ 学級道徳指導計画、道徳教育全体計画別葉、主題配列一覧表の作成
- ⑤ 教育課程（道徳教育）への改善点の記入